

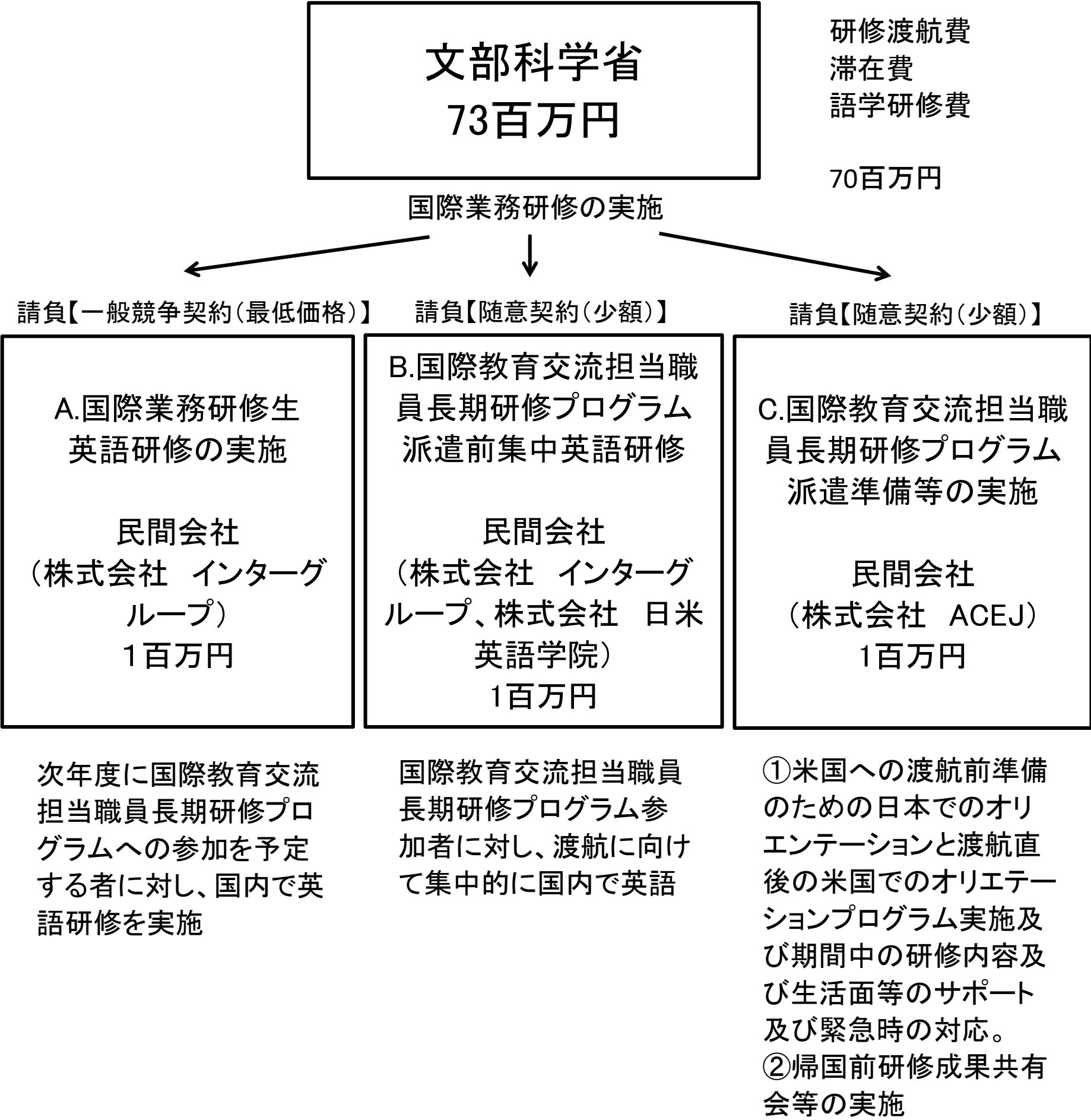
	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)		
事業名	国際業務研修の実施			担当部局庁	大臣官房国際課		作成責任者	
事業開始年度	平成9年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	大臣官房国際課		大臣官房国際課長 北山 浩士	
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	-			
政策	13 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進			主要経費	その他の事項経費			
施策	13-1 国際交流の推進							
政策体系・評価書URL	-							
事業の目的 (5行程度以内)	文部科学省職員等を諸外国の行政・教育・文化機関等に派遣し、実務研修及び当該国の教育・科学技術等に係る調査研究に従事させることにより、国際関係業務遂行能力の向上を図り、研修修了後には中・長期的に国際関係分野の業務で活用される人材を育成する。							
現状・課題 (5行程度以内)	米国、英国、仏国等にある国際機関等に職員を派遣し、実務研修及び調査研究等に従事させている。 派遣者の多くが帰国後に国際関連業務に従事している実績があり、国際関係分野の業務で活用される人材の育成という目的の達成に大きく寄与している。							
事業概要 (5行程度以内)	グローバル化が急速に進展する今日の世界情勢において、我が国が強力な国際競争力を有し、高度・複雑かつ多種多様な諸問題に適切に対応していくため、国際業務研修を実施することにより、国際化に対応できる人材を育成するとともに、組織の国際競争力の強化を図る。具体的には、米国、英国、仏国等にある国際機関等に職員を派遣し実務研修及び調査研究等に従事する「外国政府等職員交流研修プログラム」等を実施する。							
事業概要URL	-							
実施方法	直接実施、委託・請負							
補助率等	-							
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算(A)	84	84	84	74	74	
		補正予算(B)	-	-	-	-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-		
		予備費等(E)	-	-	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	84	84	84	74	74		
	執行額(G)		24	65	73			
	執行率(%) =(G)/(F)		29%	77%	87%			
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		29%	77%	87%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	(項)		国際交流・協力推進費		-			
		(目)	教職員研修費	74				74
			その他					
	計(A)		74	74				

活動内容① (アクティビティ)		国際人材の育成及び組織の国際力強化のため、職員を対象として、国際機関や海外の高等教育機関での研修を実施する。また、帰国後には当該事業成果を他の職員等に対し報告会にて共有する。									
↓											
活動目標及び活動実績① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		国際人材の育成のため、国際機関や海外の高等教育機関に職員を派遣する。	「行政官等国際業務研修プログラム」等派遣人数	活動実績	人	5	13	14	－	－	
				当初見込み	人	13	16	14	14	13	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	国際関係分野で活用できる人材育成を目的としている事業であることから、帰国後の国際関係業務ポストへの配置について、これまでと同割合を維持する。									
成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 － 年度		
		より多くの諸外国での活動を通じて、幅広い国際分野で活用できる人材を獲得する。	本事業で派遣した国数	成果実績	か国	3	3	3			
				目標値	か国	6	6	6	5		
				達成度	%	50	50	50			
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		派遣国調査									
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	毎年度の派遣において、帰国後の国際関連業務への配置を目指し人事計画を策定する等を積み重ねることにより、配置率を高めることができると見込まれるため。									
成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度		
		派遣された者が、帰国後5年以内に国際企画・国際交流等、国際関連業務を主たる業務とするポストに配置される。	過去5年に派遣された者のうち、帰国後に国際企画・国際交流等、国際関連業務を主たる業務とするポストに配置された経験のある人数。(目標値は過去5年に派遣された総数の100%で設定。)	成果実績	人	46	48	45			
				目標値	人	63	66	55	55		
				達成度	%	73	72.7	81.8			
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		帰国後の職務の追跡調査									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由									
		－									
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由									
		－									
		－									
事業に関連する KPIが定められて いる閣議決定等	名称	－									
	URL	－									
	該当箇所	－									

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)



A.			B.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
研修実施費	講師による授業実施に要する経費	1	研修実施費	講師による授業実施に要する経費	0.7
計		1	計		0.7
C.			D.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
役務費	研修の企画、指導、運営等に係る経費	1.1			
計		1.1	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

